Title	カール・マルクスの『労働者調査』
Sub Title	
Author	藤林, 敬三
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1936
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.30, No.11 (1936. 11) ,p.1661(69)- 1677(85)
JaLC DOI	10.14991/001.19361101-0069
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19361101-0069

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

カール・マルクスの『労働者調査』

藤 林 敬 三

最近 Hilde Weiss(註)が Zeitschrift für Sozialforschung, Jahrg. V, Heft 1, 1936. 誌上に「カール・マルクスの『労働者調査』」と題する一文を掲げてゐるが、果してマルクスが労働者の生活状態の調査の意圖を持ち、且つこのために多少の努力を事實拂つてゐたものであるとすれば、マルクスに關するこの新しい一問題は種々なる方面の多くの人々の興味を喚起するに充分のものであらう。マルクスが彼の理論の經驗的素材として、當時の英國に於ける工場労働者の生活状態に關する實情を廣く求めてゐることは、資本論を讀むものゝ等しく認める所である。それ許りではなく更に一般的に云へば、彼の理論と實踐が労働者の生活状態の現状と不可離の關係に置かれてゐるとすれば、労働者の生活現狀を知らんがために、マルクスがまた労働者調査のために多少の努力を拂つたとしても、それは別に異とするに足らぬ。

私は此處ではワイスの所論を紹介するといふよりは寧ろ、ワイスに従つてマルクスの努力だと考へられるものゝ紹介を主として行ふと思ふ。

註一 著者ワイスに關しては私は多くを知らない。が最近公刊せられた「一八三〇年——一八四八年間のフランスに於ける労働者調査」(Hilde Rigaudas-Weiss, Les Enquêtes Ouvrières en France entre 1830 et 1848, 1936)が、また著者の努力に
なるものとするれば、私が此處に取り擧げたマルクスに關する彼女の研究は右の著作に引き續く歴史的研究の一断片である
と見做され得る。フランスに於ける過去の労働者調査としては、何人も先づ F. le Play の諸努力に指を屈するのが、普
通である。右の著作がこれに對して、ル・プレーに先き立つて E. Buret と L. Villermé を問題としてゐることは、吾々
の關心を強めるのに足るものである。尙ほ序にワイス女史に就いて云へば、彼女は纏むに Hilde Weiss, Abbe und Ford,
Kapitalistische Utopien, 1927 なる著作に於いて、アッペとフォードの社會政策的労働者政策に對するマルクシズムの立場
からの検討を行つてゐる。

二

一八八〇年十一月五日附、ゾルダに宛た手紙の内にマルクスは次ぎの如く書いてゐる。「僕は彼 (Benoit Malon,
『社會主義評論』Revue Socialiste の編輯者)のために質問票 Questionneur(註二)を書いた。この質問票は先づ『社會
主義評論』に現はされ、そして極めて多數複製せられて全フランスに配布せられた」と。ワイスはこの一節を基礎と
して、同年四月二十日の『社會主義評論』中に匿名で現はれてゐる『労働者調査』Enquête Ouvrière がマルクスの筆
になつたものであると断定する。そしてこの「調査」に依つて傳へられたものは單に凡そ百ヶの質問とそれへの添書
からなる詳細な質問票に過ぎないと考へられる。尙ほ右の『労働者調査』に對する注意に従ふと、この質問票は別に
二萬五千部複製せられ、それは總ての労働者團體、一切の社會主義團體と民主主義團體、一切のフランスの新聞、
及びそれを需める個人に配送せられた。これに就いて同年四月二十八日の L'Égalité 紙——マルクスは右のゾルダ

への手紙の内に本紙を以つてフランス最初の労働者新聞だと云つてゐる——は、『社會主義評論』の労働者調査の企
てを稱讚し、ブルジョアジの支配に依つて創り出された労働者階級の狀態に關する調査を行ふことは、所有階級
を相手として問題にし、今日の社會に向けられる非難の材料を蒐集し、總ての被抑壓者、賃銀收得者をして彼等が
絶へずその犠牲となつてゐる所の不當の事實を知らしめ、従つてその犠牲から免れやうとする意思を彼等の心意中
に呼び起すことであると論評し、かくの如く、調査の階級性を指摘しつゝ、繰返し讀者に對して調査への参加を懇
請し、且つ同紙には右の質問票を添附した。その後同年七月五日の『社會主義評論』はその労働者調査に關して、若
干數の質問票の回答が返送せられて來てゐること、及び更らに多數の回答を待つて本調査の研究が始められるであ
らうことを傳へ、このために「この Cahiers du Travail——調査票のことをかく稱してゐた——を完成することが根
本的に重要であり、且つ吾々のこの困難な企てに参加することに依りて無産者諸君は諸君の解放に直接働きかける
ものであること」の考慮を促して、未回答者の急速な回答を希望してゐる。——そしてこの一文は、ワイスに従へ
ば、その筆法から見て恐らくマルクス自身の筆になるものであると想定せられてゐることを附言して置かう。

註二 此處に指摘せられてゐるマルクスのゾルダ宛の手紙は、マルクス・エンゲルス全集、第二十四卷(改造社版)中に邦譯せ
られてゐる。そして Questionneur の語を含む一節は次ぎの如く譯出せられてゐる。「僕は彼のために、Questionneur」(質
問する人)を著はした。(同著、一六四頁)しかし私はワイスの研究に従つて前掲の如く意譯して置いた。

然らばかく元來マルクスの企圖したと考へられる右の労働者調査が、その後多數の労働者の手になる調査票の回
答を得て、満足な研究を産むに至つたかどうか。ワイスはこの點に就いて、それが極少數の回答を得たに過ぎない
ことを述べて、その企ての失敗を傳へてゐる。そして彼女に従へば、この調査の失敗は問題の數とその當時のフラ

ンスの労働者階級の状態との二つの點に歸せられる。即ち彼女の云ふ所に依れば、今日に於いても亦普通の労働者に取つては、彼等の自由時間中に百ヶの詳細な質問に回答することは容易のことではない。況んや彼等の文才——書記及び表現能力——が比較的未發達であつた當時の労働者に於いておやである。更らに當時のフランスの労働運動はパリ・コムミュン以來衰微して居り、この事情がまたこの種の調査を困難にした理由である、ワイスの指摘する所は何人もこれを首肯しなければならぬ點である。しかし尙ほこれに加へて、調査者側に相當の準備的努力と組織的にして積極的な調査活動とに於いて多く欠ける所があつたことを、恐らくは調査失敗の原因の一つに加へ得るのではないかと想像せられる。

マルクスの企てたと考へられる労働者調査は何等の結果をも見ることなくして終つた。しかし吾々はマルクスの手になつたと想定せられる調査票に關しては、今日尙ほ多大の關心を持つてこれに接することが出来るであらう。私は此處に廣く吾國の讀者のためにその調査票を譯出して置き度いと思ふ。

三

ワイスは『社會主義評論』に掲げられた「労働者調査」の所謂調査票と見做されるものを獨譯してゐるのであるが、私はこのワイスの獨譯を更らに此處に邦譯する次第であつて、豫めこの點に就いて讀者の了解を得て置き度いと思ふ。尙ほこの調査票は四部に分たれ、合計百一項目から成つて居り、それに調査に關する前書が附加せられてゐる。そして私は此處にその全體を譯出する譯けである。

從前君主主義的たると共和主義的市民的たるとを問はず何れの政府も、フランス労働者階級の狀態に關して眞面目な調

査を敢て企てたことがない。しかしこれに反して農業、金融、商業上の恐慌、及び政治的危機に就いては既に多くの調査が行はれてゐる。

英國政府の調査に依つて從來曝露せられてゐるが如き資本主義的搾取の劣悪な諸行爲、かくの如き曝露が引き起した立法上の諸結果(十時間労働日への法律上の制限、婦人及び兒童労働に關する法令等)、これ等は、一度公平にして系統的なる調査が行はれたる場合には、それが暗示し得る危険に對する恐怖を、フランスのブルジョアに對して與へて來てゐる。

吾々が「フランスの」共和主義的政府をして英國の君主主義的政府に學んで資本主義的搾取の所業と非行に關する庶汎なる調査を開始せしめ得るに至るまでは、吾々の自由にし得る微弱なる手段を以つてかくの如き調査を開始しやうと試みやう。吾々はこの吾々の企てを行ふに際して、労働者のみが事實能く彼等がその下に苦める弊害を記述することを心得て居り、また凡そ神に依つて定められた救世主ではなく、彼等の耐へ忍ぶ社會的窮乏に面して救濟手段を力強く用ふることが出来るものなることを理解せる、都市と農村の總ての労働者の支援を熱望する。更らに吾々は、社會改良を希望し、從つて労働者階級の労働並に生活の諸條件に就いての正確にして實證的なる知識を得んと欲してゐる筈である有ゆる傾向の社會主義者に對しても亦、將來が彼等に屬して居るものなることを期待する。

この労働記述簿 *Cahiers du travail* は社會的革新の準備のために社會主義的民主主義に課せられたる最初の課題である。次ぎの百ヶの質問は最も重要なものであり——その回答はその都度質問の番號を附せられたし——總ての質問に答へる必要はない。しかし吾々は出来るだけ廣汎にして詳細に互る回答を推稱する。特別の委任に基づくにあらざれば、回答せる労働者男女の氏名はこれを公表しない。しかし吾々が回答者と聯絡をとり得るやう、氏名と共に住所をも申告して貰ひ度い。回答は、パリ郊外サン・クロワ、ロワイヤール街二八、社會主義評論管理部、レククリエヌ *M. Lecluse* 宛、送附せらるべきこと。

回答は精査され、特殊論稿の材料たるべきものであつて、この諸特殊論稿は『社會主義評論』中に公表せられ、後に合はせて『書冊とする。』

(一)

- 1 職業。
- 2 貴下の就業せる経営は個人資本家の所有であるか、或は株式会社に屬するか。企業家、或は会社の重役の氏名を記述せよ。
- 3 従業員數。
- 4 従業員の年齢及び性別に關する詳報。
- 5 兒童(男女)の就業を許される最低年齢は何歳であるか。
- 6 監督者數、或は通常の賃銀労働者にあらざるその他の社員數。
- 7 徒弟が居るか。何人か。
- 8 正規の、且つ規則的に就業せる労働者を除いて、外部から、且つ一定の時季に就業せしめられる労働者が別にあるか。
- 9 諸君の企業家の経営は専ら、若しくは主として、地域的に固着せる顧客に對してか、一般内國市場に向けてか、或は海外輸出のためか、その孰れに對して生産を行つてゐるのか。
- 10 経営が田舎に在るのか、または都會に存するか。その所在地を記せよ。
- 11 経営が田舎に在る場合には、貴下の工場に於ける労働は貴下の生活費を得るに充分のものであるか、或は貴

下は「このために」工場労働の外に農業上の労働にも従事するか。

- 12 貴下は手工作業に従事してゐるのか、或は機械を使用する労働に従事してゐるのか。
- 13 貴下の経営内に於ける分業に就いて詳述せよ。
- 14 動力として蒸氣が利用せられてゐるか。
- 15 企業の各諸部の營まれてゐる部屋數を挙げよ。貴下の作業せる部に於ける特殊の作業に就いて記述し、その際單に技術的方面のみならず、またこの作業に由る筋肉並に神經の疲労、及び労働者の健康状態に及ぼす疲労の一般的影響を述べよ。
- 16 経営の衛生状態、作業場の廣さ、労働者各自に割當られた場所、更らに通風、氣温、壁の漆喰塗、便所、一般の清潔状態、及び機械の騒音、金屬粉末、濕度等に就いて記述せよ。
- 17 経営の衛生状態に就いては市、或は國家の監督が行はれてゐるか。
- 18 貴下の就業せる工業に於いては労働者の間に職業病を生ぜしめるやうな特殊の、身體に有害なる發散物 emanation が存するか。
- 19 経営には機械が一杯に据附けてあるか。
- 20 動力(機)、傳導(設備)、及び(作業)機械は安全装置に依つて災害を惹き起さないやうにされてゐるか。
- 21 貴下自身の經驗せる災害事故を數へ挙げよ。
- 22 貴下が若し鑛山に就業してゐるとすると、換氣をよくし、爆發及びその他の危険なる災害を豫防せんがために企業家が施せる處置を挙げよ。

- 23 若し貴下が化学工場、冶金工場、金属工業、或はその他の特殊の危険を有する工業に働いてゐるとすると、企業家の施せる災害豫防處置が如何なるものであるか、これを挙げよ。
- 24 貴下の経営の照明は如何、ガスか、石油か、その他のものか。
- 25 火災の場合には救助準備が充分行き届いてゐるか。
- 26 企業家は災害事故の發生に當つて労働者、若しくは彼の家族に災害を補償する法律上の義務があるか。
- 27 その義務のない場合、企業家は労働者達が彼を富ましめんがために作業しつゝある間に不幸に遭遇せるものにその都度補償をしてやつて來てゐるか。
- 28 貴下の経営には醫務施設があるか。
- 29 貴下が家庭に於いて仕事に従事してゐる場合、貴下の作業室の状態を記述せよ、貴下は唯だ道具を使用するだけであるか、或は小機械を用ひるか。貴下の小供達、或はその他の人々(大人か、小供か、男子か、女子か)の手助けを受けるか。個々の顧客のために仕事をしてゐるのか、或はある企業家のために労働してゐるのか。直接企業家と取引を行ふのか。或は仲介者の手を通ずるのであるか。

(II)

- 30 日々の労働時間及び週労働日を述べよ。
- 31 一年中の休日に就いて述べよ。
- 32 如何様に休憩が労働日中に與へられてゐるか。
- 33 食事時間は定つてゐるか、或は不規則であるか。食事は経営内で採られるか、それとも経営外であるか。
- 34 食事中にも仕事が続けられてゐるか。

- 35 蒸氣を利用してゐる場合には、何時蒸氣機關を運轉し、何時休止するか。
- 36 夜業が行はれてゐるか。
- 37 兒童並に十六歳未満の少年の労働時間を述べよ。
- 38 労働時間中に互に交替する兒童並に少年の交替(制度) *Hebels* が存するか。
- 39 兒童労働に關する諸法律が政府或は市當局に依つて執行せられてゐるか。企業家はその法律に服従してゐるか。
- 40 貴下の経営に就業してゐる兒童並に少年のための學校が存するか。學校のある場合には、授業時間は何時間か。管理者は誰か。何が教授せられてゐるか。
- 41 晝夜業の共に存する場合には、如何なる交替制度が存してゐるか。
- 42 工業的活動の活潑に行はれてゐる期間に、通常労働時間は如何程延長せられるか。
- 43 機械は特に清掃のために雇傭せられてゐる労働者に依つて掃除せられるのであるか、或は労働日中その機械を使用して労働せる労働者に依つて無報酬で掃除せられるのであるか。
- 44 遅刻に對する處分、制裁は何如なるものであるか。何時に労働日が始まり、食事後労働は何時開始せられるか。
- 45 貴下は経営への往復に何時間を費すか。

(III)

- 46 貴下は企業家と如何なる契約關係にあるか。貴下は一日、一週、一月、その他、その何れに於いて傭はれて

ゐるのか。

- 47 企業家の側、並に労働者の側に契約解除告知の何如なる条件が存立してゐるか。
- 48 契約違反に際して何如なる時に企業家は不當であり、且つ彼の受ける處罰は如何なるものであるか。
- 49 何時労働者は不正の行爲をすることになり、且つ彼の受ける處罰は如何なるものであるか。
- 50 徒弟の存する場合、その年奉公契約の條項は何如なるものであるか。
- 51 貴下は規則的な労働、或は不規則な労働の孰れに従事するか。
- 52 貴下の職業では仕事が一定の季節だけに存するのであるか、或は時代の正常な状態の間には仕事は略々一年を通じて等しく分配されてゐるのであるか。貴下が若し單に一定の季節だけ労働するのであるとすると、その他の時期には貴下は如何にして生活してゐるのであるか。
- 53 貴下は時間賃銀を受取るのか、それとも個數賃銀を得てゐるのか。
- 54 貴下が若し時間賃銀を得てゐるとすると、貴下は時間を規準としてか、或は日を規準にして支拂はれてゐるのであるか。
- 55 特殊の労働に對しては特殊の賃銀が支拂はれるのであるか、それは幾許であるか。
- 56 貴下が若し個數賃銀で働いてゐるのならば、その個數賃銀は如何にして確定せられるのであるか。若し貴下が、労働が生産結果の數量或は重量に従つて、例へば鑛山に於けるが如く、評價せられてゐるやうな工業に就業してゐるのならば、企業家或はその代理人達は、貴下から貴下の賃銀の一部分を奪ひ取らんがために、詐欺的な方法を利用しはしないか。

57 貴下が個數賃銀を支拂はれてゐるのならば、〔貴下の生産した〕商品の品質を口實として企業家は貴下の賃銀を詐欺的に減額しはしないか。

58 貴下が個數賃銀を得てゐるか、時間賃銀を得てゐるかは別として、貴下は何日に賃銀を支拂はれるか。云ひ換へれば、貴下が實行した労働に對する價格を受取るまで、どれだけ長く貴下は貴下の雇主に信用を與へてゐるのか。貴下は一週間後に支拂はれるのか、一ヶ月後か。

59 賃銀の支拂の延期のために、貴下は止むなく屢々質屋通ひをし、高い利子を支拂ひ且つ生活上重要な財貨を購入することが出来なくなり、小賣商人に借金をし、借主であるために彼等の餌食となるやうなことになるのに、貴下は氣が付いてゐるか。貴下(註)は労働者達が彼等の企業家の支拂停止或は破産に依つてその賃銀を失つたことのある例を知つてゐるか。

註(註)の處 *sie* とあるは *Sie* の誤りかと思はれる

60 賃銀は直接企業家に依つて拂渡されるのであるか、或はその媒介者(仲介人 *Verstehermeister* 等)に依つて支拂はれるのであるか。

61 賃銀が仲介人或はその他の媒介者に依つて拂渡される場合には、貴下の契約の條項は如何なるものであるか。

62 貨幣形態に於いて、貴下の賃銀額は日に、また週に幾許であるか。

63 同一經營で貴下と一緒に働いてゐる婦人及び兒童の賃銀は幾許であるか。

64 貴下の經營では、先月中最高の日給は幾許であつたか。

65 先月中最高の出來高給は幾許であつたか。

66 右の期間中貴下の賃銀は幾許であつたか。貴下が若し家族を有する場合には、貴下の妻及び子供の賃銀は幾許であるか。

67 賃銀は全く現金で支拂はれるのであるか、それとも別の方法で拂はれるか。

68 貴下の企業家が貴下に住宅を賃貸してゐる場合には、彼の約定は如何なるものであるか。彼は貴下の賃銀中から家賃を差引くのであるか。

69 次の諸必要物に對する価格は幾許であるか。

a、家賃。賃借諸條件(Mietsbedingungen)室數、其處に住む人數、修繕、保險、家財の購入及び管理、暖房、照明、給水等。

b、食料。パン、肉、野菜、馬鈴薯等、牛乳、玉子、魚、バター、油、豚脂、砂糖、鹽、調味料、コーヒー、

チョコレート(Nichorie)ビール、果酒、葡萄酒等、煙草。

c、両親及び小供の衣服、敷布、洗濯、入浴、石鹼等。

d、諸雜費。郵税、貸金、質入、小供の授業料、新聞、書籍等の購入費、共濟會、同盟罷工、諸同盟、労働組合(Ersatzgewerkschaften, sociétés de résistance)等への諸會費。

e、貴下の職務執行に依つて生ずる任意の費用。

f、租税。

70 一週間と一年間の収入と支出の家計、その貴下と貴下の家族のもの、計算とを作成してみよ。

71 貴下は自ら、(例へば住宅、食料等の)生活必要物の価格が賃銀よりも遙かに騰貴してゐるのに、氣付かれた

ことがあるか。

72 貴下の知れる賃銀額の變動を列舉せよ。

73 不景氣及び恐慌時に於ける賃銀低下を例示せよ。

74 所謂繁榮期に於ける賃銀上昇を例示せよ。

75 流行の變化のために、或は特殊の、また一般的恐慌の結果である、労働の中断に就いて述べよ。貴下自身の自由意志に依らざる失業時に就いて報ぜられ度い。

76 貴下の生産する商品の價格、或は貴下の行ふ勤勞の價格と貴下の労働の價格とを比較して見よ。

77 労働者達が機械、或はその他の技術上の改良の採用に依つて解放せられた(失業せしめられた)場合の、貴下の知れるものを傳へられ度い。

78 労働の強度と持續は機械の發達と労働生産力(の發展)と共に増大したか、或は減少したか。

79 生産の進歩の結果幾許かでも賃銀は増加したか。

80 貴下は嘗つて、五十歳にして引退し、その賃銀労働者としての地位にあつて得たる金錢を以つて生活して行ける労働者を、知つて居たことがあるか。

81 貴下の職業に於いては労働者は通常の健康状態を以つて何年位労働し得るか。

(III)

82 貴下の職業には労働組合が存するか、その労働組合は如何様に指導せられてゐるか。労働組合の規約を送附せられ度い。

- 83 貴下の職業に於いては貴下が経験上知れる同盟罷工は従来何回生じてゐるか。
- 84 これ等の同盟罷工は何日間位繼續してゐるか。
- 85 その同盟罷工は全般的であつたか、部分的であつたか。
- 86 同盟罷工の目的は賃銀の増加にあつたか、同盟罷工は賃銀の低下に反抗することを任務としたか、それは労働日の長短に關係してゐたか、或はそれ以外の理由から生じたものであつたか。
- 87 同盟罷工の結果は如何なるものであつたか。
- 88 仲裁者の行爲に就いて少しく語られ度い。
- 89 貴下の職業に屬する労働者は他の職業部門に屬する労働者の同盟罷工を支持したか。
- 90 貴下の企業家はその賃銀労働者の支配のために設けてゐる罰則に就いて報告せられ度い。
- 91 賃銀を低下し、労働時間を延長せんがために、同盟罷工を妨げせんがために、且つ一般に企業家の意志貫徹せんがために、企業家團體が従来から存してゐるのであるか。
- 92 政府が企業のためにその労働者に向つて公權力を濫用した場合のあるのを貴下は知つてゐるか。
- 93 政府が企業家の搾取に對し、またその不法な結合に對して労働者を保護せんがために干渉する場合のあるのを貴下は知つてゐるか。
- 94 政府は雇主に對して労働に就いて確立せられてゐる諸法律を実施せしめてゐるか。政府の監督官達はその義務を遂行してゐるか。
- 95 貴下の經營或は職業に於いては、災害、疾病、死亡、一時的労働不能、老年等の場合の相互救済のための組合が存してゐるか。その組合の規約條項を送附され度い。

96 この組合への加入は任意であるか、強制的であるか。その基金は専ら労働者の監査に屬してゐるのであるか。

97 組合員費の支拂が強制的であり、且つそれが雇主の監査の下にある場合には、雇主はそれを賃銀から差引くのであるか、雇主はこの控除されたものに對して利子を支拂ふか、若し労働者がその經營を去る場合、或は彼が解雇せられる場合にはそれは彼に拂ひ戻されるのであるか。企業家に依つて監査せられて居り、しかもその基本金は豫め労働者の賃銀から引き去られたものである所のこの所謂退職積立金庫 *Versorgungskassen, caisses de retraites* が、労働者の利益となるやうな例を貴下は知つてゐるか。

98 貴下の職業には協同組合が存してゐるか。それは如何に運營せられてゐるか、局外労働者も資本家と同様にそれを利用するのであるか。その組合の定款を送附して貰ひ度い。

99 貴下の職業に於いては、労働者への賃銀支拂ひが一部分は賃銀として、且つ一部分は所謂利潤分配の名の下に支拂はれるやうな經營があるか。この種の労働者の賃銀總額と所謂利潤分配の存しない他の労働者の賃銀總額とを比較して見よ。この制度の下にある労働者の義務を列擧せよ。この種の労働者達は同盟罷工を行ふことが可能であるか、若しくは彼等には單に雇主の従順なる下僕たることのみが許されてゐるのであるか。

100 一般に貴下の職業に従事してゐる男女労働者の保健、知力及び道德の状態は如何様であるか。

101 一般的注意諸事項。

註 右の譯文中「」にて示したる所は、筆者自らの附加した補足である。

四

マルクスの労働者調査に先き立つ、十九世紀に入つて屢々行はれたフランスに於ける諸労働者調査は、ワイスの理解する所に従へば、社會立法の見解から、或は博愛主義の立場から、また時には労働運動に對する敵意からさへ企てられたものであつた。これに對してマルクスの労働者調査は次ぎの三點に於いて異なるものである。即ち第一にその調査の目的並に其處に擧げられた質問の各項目から觀て、その企圖する所は明かに労働者の現實の社會的狀態の詳細な描寫にあること。第二に質問票の回答を専ら労働者自身に要求してゐること。そして最後にその調査は教育的目的、即ちマルクス學說に一致して労働者をして彼等の社會的被抑壓狀態の認識と階級的自覺とを促さうとする意圖を充分含んでゐること、がこれである。

かくの如き諸特徴を有するマルクスの労働者調査は、(Ⅰ)經營と労働保護、(Ⅱ)労働時間、婦人及び兒童労働、(Ⅲ)賃銀と失業、(Ⅳ)労働者の組織と鬭争の四部に分たれ、それ等が合計百ヶの問題を含む質問票を主體とするものであるが、ワイスに従へば、その質問は労働者を導いて彼の職業生活の全部面に觸れしめ、且つ労働者に對して、彼の日常生活上の個々の事實が如何にして相互に關聯してゐるか、またそれ等の個々の事實が如何なる一般的法則に従つてゐるかを示してゐる。更らにまたワイスの評價に従へば、その百ヶの質問を讀む場合には既に、労働者に取つては、其處で問題とせられてゐる一見全く自明な日常の個々の事實は結合せられて、彼の生活狀態の全景が明らかとなる。その質問に眞面目に答へんとする場合には、彼の生活狀態の社會的制約は彼の意識する所となる。彼は資本家的經濟及び國家の本質を洞察することが出来、且つ賃銀労働者としての諸關係の廢棄、彼等の解放のための手段と方法を學び知るやうになる。かくてこの質問票は労働者達が彼等の經驗を記述することに依つて生々した内容を以つて満たす社會主義的教科書の枠を構成する。

マルクスの労働者調査に關するワイスの右の如き評價を吟味することを止めて、私自身の關心から云へば、「元來初めて労働者を發見したものはカール・マルクスである。……眞實マルクスは最初の労働者の心理學を記述してゐる」(註三)といふエリヤスベルクの言葉を此處に想起して、マルクスに労働者調査の企圖の存してゐたことが新に見出されたのは、甚だ興味のあることである。そしてこの吾々の興味から見ても、マルクスの労働者調査は先づその調査方法に於いて、更らにその調査票が専ら労働者の職業生活に關聯するものであるとは云へ、しかもその限りに於いて甚だしく詳細を極めた質問を掲げてゐることに於いて、大いに見るべきものを殘してゐる。勿論今日から見れば、マルクスの依據した調査方法は一般の労働者調査のためにも、亦労働者心理學的研究のためにも不充分であり、特に質問票に依る労働者自身の回答だけに安んずることは未だ調査結果の信頼度を高める所以ではない。しかし若しこの調査が成功し、その調査票に對する労働者の回答を素材としてマルクス自身の研究の手がこれに加へられてゐたとすれば、それに依つて多少の利益を得るものは單に吾々と興味を等しくするものだけに限らなかつたであらう。

註三 Archiv f. sozialwiss. u. Sozialpol. Bd. 56, 1926, S. 67.

(昭和十一年十月十六日稿)